

授業科目	英語通訳演習 I				実務家教員担当科目	-					
単位	2	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期				
担当教員	Kristen Maree Sullivan										
授業概要	<p>通訳技術を磨くための様々なトレーニング方法を実践を通じて学びながら、通訳の基礎技術を身につけるとともに、英語運用力の総合的な強化を図る。授業では発表の場としてプレゼンテーションや通訳パフォーマンスの機会を設ける予定である。</p> <p>授業では主に次のような通訳のトレーニング方法を学ぶ：quick response, shadowing, retention, sight translation, consecutive interpretation, note-taking.</p>										
授業形態	演習	授業方 法									
学生が達成すべき行動目標											
標準的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通訳トレーニングの方法を実践を通じて使えるようになる。 2. トレーニングを積み重ねて基礎的な通訳技術を身につける。 3. 練習を重ねて教科書付属の音声資料をスクリプトを見なくてもシャドーイングできるようになる。 										
理想的 レベル	<p>標準的なレベルに加えて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. よりよい英語発音や言語表現、発表態度に配慮し、聴き手を意識したプレゼンテーションのパフォーマンスを意識できる。 2. 英検準1級取得、TOEIC リスニング 50 点アップ 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）			備考							
試験											
小テスト	85%			小テストの内容およびスケジュールについて第1回の授業で説明する。							
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物	15%			振り返りメモ帳							
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリン グ	EN31206J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎週該当の Unit の予習・復習を行う。 ・毎日英語のニュース記事を読む。 ・毎日 NHK の多重放送ニュース（日本語・英語）を視聴し、日英双方の語彙力を高めること。 										4	
授業計画											
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスの説明（授業の進め方、成績評価の仕方、小テスト、教科書、授業時における注意事項について説明する。） 2. 通訳技術について説明する。 										

第2回	Unit 1: Communication (1)-1 A. Comprehension / B. Shadowing / C. Retention / D. Sight translation
第3回	Unit 1: Communication (1)-2 E. Consecutive interpretation, Note-taking / F. Translation
第4回	Unit 2: Communication (2)-1 A. Comprehension / B. Shadowing / C. Retention / D. Sight translation
第5回	Unit 2: Communication (2)-2 E. Consecutive interpretation, Note-taking / F. Translation
第6回	Unit 3: Sight-seeing (1) A. Comprehension / B. Shadowing / C. Retention / D. Sight translation / E. Consecutive interpretation, Note-taking / F. Translation
第7回	Unit 4: Sight-seeing (2) A. Comprehension / B. Shadowing / C. Retention / D. Sight translation / E. Consecutive interpretation, Note-taking / F. Translation
第8回	実践演習 (1A) Unit 1~Unit 4
第9回	振り返り (1) 実践演習 (1B) Unit 1~Unit 4、応用問題
第10回	Unit 5: Sight-seeing (3) A. Comprehension / B. Shadowing / C. Retention / D. Sight translation / E. Consecutive interpretation, Note-taking / F. Translation
第11回	Unit 6: Social Issues (1) A. Comprehension / B. Shadowing / C. Retention / D. Sight translation / E. Consecutive interpretation, Note-taking / F. Translation
第12回	Unit 7: Social Issues (2) A. Comprehension / B. Shadowing / C. Retention / D. Sight translation / E. Consecutive interpretation, Note-taking / F. Translation
第13回	実践演習 (2A) Unit 5~Unit 7
第14回	振り返り (2) 実践演習 (2B) Unit 5~Unit 7、応用問題
第15回	振り返り (3) 授業を通して身につけられた通訳技術および英語運用力について自己評価を行ったり、担当教員からフィードバックをもらったりして、自分の課題や今後の目標や勉強の仕方について検討する。
テキスト	水野 真木子、鍵村 和子、中村 幸子 共著『通訳トレーニングコース[改訂四版]』（大阪教育図書、2011） ISBN: 978-4-271-41002-7 ※適宜、資料やプリントを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	英和・和英辞書、振り返りメモ帳を必ず持参すること。

課題に対するフィードバックの方法	授業中に口頭でフィードバックを行う。
学生へのメッセージ・コメント	<ol style="list-style-type: none">1. 受講者のレベルを確認したあと、より効果的な授業運営を行うために授業スケジュールを調整することがあります。2. 毎日英語によるニュース記事を読むとともに、NHKの多重放送によるニュースなどを視聴して、日本語・英語ともに語彙力や表現力を培いましょう。また授業で学んだトレーニング方法で訓練を積み重ね、通訳技術を少しずつ身につけていきましょう。3. 毎回の課題に取り組んだ上で授業に参加すること。4. 授業後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。5. 授業では、プレゼンテーションや通訳実践時を含め、授業活動全体を通じたパフォーマンスの質も重視します。

